

NIKKEI DESIGN

No Design, No Business

特集1

サイズが 開く新しい価値

12
2007



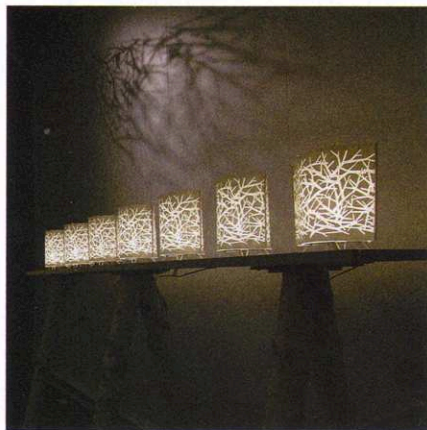
アルファベットプロジェクト

世界各国のデザイナー、アーティストらにアルファベットの26文字のデザインを1つずつ依頼。このアルファベットを基に作ったガムテープが、エクステンション会場ではサインのように使われたり、即席看板にされたり、と大活躍した。ほかにアルファベットTシャツ、オフィシャルバッグ、バッジなどに採用され、イベントに統一感をもたらした



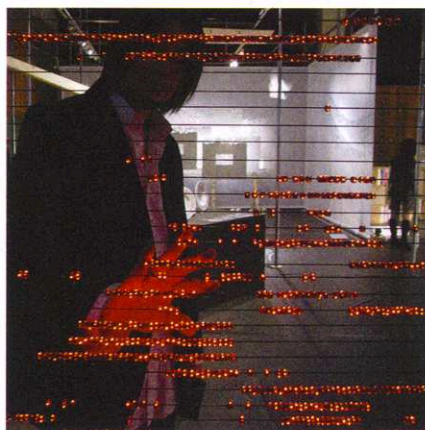
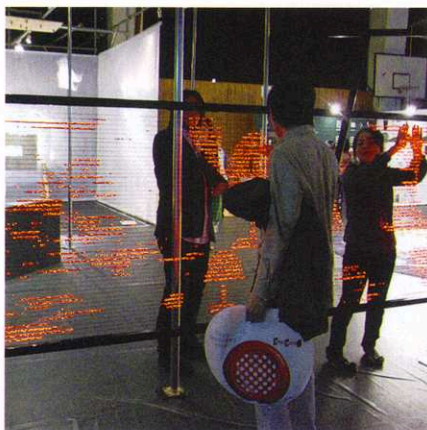
安積朋子 & t.n.a Design Studio、maxray、竹尾「Little Woods」

竹尾が販売する紙「パチカ」を利用したマックスレイの新作照明「Little Woods」の発表の場として、タイドエキシビションに参加。照明機器を並べるだけでなく、紙そのもの、パターンだけでも確認でき、熱加工した部分だけが透明になるパチカの特徴がよく分かる展示になっていた



dilight 「L-E-D--LED-L-ED」

LED（発光ダイオード）を仕込んだビーズ状のコイルが、コーティングされたワイヤーにまるでそろばんの玉のように付いている。120個のビーズを51本のラインとし、合計6120個のビーズを自由に動かすことができる。デザインオフィス dilightが、LEDメーカーのシステム開発者から「技術と人をつなぐためのデザインを」と依頼され、インスタレーションを企画。来場者にビーズで絵柄を作ってもらい、体感できる展示となった



今年で3回目となるデザインタイドは、10月31日から11月4日の間、国立競技場霞ヶ丘体育館をメイン会場に、青山や六本木、丸の内のショップ、カフェなど53会場を「タイドエクステ

ンション」として開催された。Happeningやデザイナーズブロックなども数に入ると、10年が経過した東京のデザインイベントだが、今回のデザインタイドは過去を振り返っても、また今年のイ

ベントの中でも、最も明確なメッセージを発した催しだったように感じる。

根底にあるテーマ「ほんとに必要なものだけを」がよく表れており、製品の発表や物販をはじめ、デザイナーの技量を